

視察報告書

北海道・北海道庁・北海道小樽市・北海道函館市

平成30年7月23日（月）～25日（水）



北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）

松阪市議会
政志会

平成30年 8月 8日

松阪市議会議長 山本 芳敬 様

松阪市議会
政志会 濱口 高志

平成30年7月23日（月）から7月25日（水）の間、行政視察を実施しましたので下記のとおり報告いたします。

記

1. 参加者

政志会

濱口高志

米倉芳周

市野幸男

谷口 聖

松本一孝

中村 誠

2. 視察先及び視察事項

(1) 北海道庁

- ・北海道150年事業について

(2) 北海道 小樽市

- ・小樽市空家等対策計画について

(3) 北海道 函館市

- ・函館マラソンについて

3. 視察内容

別紙のとおり

I. 北海道（北海道庁）

1. 北海道の概要（平成 30 年 1 月 1 日現在）

(1) 人口 男性 2,522,526 人 女性 2,817,013 人 合計 5,339,539 人
世帯数 2,772,845 世帯

(2) 面積 83,424K m²

(3) 概要 北海道のほぼ中央部を北から南へ、天塩山地、北見山地、石狩山地、日高山脈が走っている。最高峰の旭岳（2,291m）を中心とする大雪山系は「北海道の屋根」と呼ばれている。道内各地には、石狩平野をはじめ、十勝平野、天塩平野、名寄盆地、上川盆地、富良野盆地などの平地が広がっている。また、釧路湿原やサロベツ原野など、日本を代表する湿原もある。

河川の数、14,800 あまりで、道が実施している常時監視結果においては概ね良好な水質を維持している。環境省がまとめる全国の水質測定結果（BOD）ランキングにおいても、これまで多数の水域が上位に選出されている。

千島火山帯と那須火山帯に属しているため、多くの美しいカルデラ湖があり、観光名所となっている。日本一大きいカルデラ湖「屈斜路湖」、透明度の高い「摩周湖」、マリモが生育している「阿寒湖」などが有名である。

周囲は、太平洋、日本海、オホーツク海の 3 つの海に囲まれている。対馬海流とリマン海流、日本海流と千島海流がそれぞれ交差しているため、世界有数の漁場となっている。

2. 対応者

北海道総合政策部政策局北海道 150 年事業室 主幹 今田美幸



北海道庁にて視察研修

3. 視察項目 北海道 150 年事業について

(1) 150 年事業の考え方

未来へつなぐ、みんなでつなぐ。2018 年、北海道は命名 150 年

- 歴史や先人の偉業を振り返り、感謝し、道民・企業・団体などが一体となって節目の年を祝うとともに、未来を展望し、互いを認め合う共生の社会を目指して次の時代に継承する。
- 北海道の価値を国内外に発信し、文化や経済など様々な交流を広げていく。

テーマ

- 北海道 151 年目の新たな一步を踏み出す
- 先人から受け継いだ財産を次の世代につなぐ
- "Hokkaido"の多様な魅力を世界に広げる

基本姿勢

- 価値創造・・・北海道の可能性を見つめ直し、新しい価値をつくる。
- 道民一体・・・北海道を愛する多くの皆さんの参加により、北の大地北海道を盛り上げる。

(2) 北海道 150 年事業の構成

実行委員会が実施

- 記念式典 ○北海道 150 年ウィーク

北海道 150 年を象徴する式典や関連する企画等をプロジェクト方式で実施。
パートナー事業も実行委員会事業として位置づける。

道民・企業・団体・市町村などが実施

- 北海道 150 年事業応援企画 ○北海道みらい事業

北海道 150 年事業の主役となる事業。道民の皆さんや地域の視点を生かし、
様々な主体が道内外で企画・実施する事業

- ・北海道みらい事業の支援 ①クラウドファンディング活用に関する支援
②道の地域づくり総合交付金による支援

道などが実施・・・関連推進施策

北海道 150 年を契機に、継続的に取り組む施策や個別事業

(3) 北海道 150 年記念式典の概要

テーマ

- 先人に学び、未来につなぐ

日程 8/5 (日)

場所 北海道立総合体育センター「北海きたえーる」(札幌)

主催 北海道 150 年事業実行委員会

メイン会場 10:30~12:30

第一部 式典 式辞/青少年の誓い/アイヌ文化・地域の伝承芸能の紹介/
合唱等

第二部 記念プログラム

歴史・文化、北海道物語 (映像)

お祝いメッセージ 道内出身者のメッセージ

松阪市 (松浦武四郎出身地) との中継等

未来への躍動 150 年その先へ

テクノロジーと未来 (映像)

未来の北海道へのエール (映像・チアダンス)

高校生による吹奏楽・書道パフォーマンス等

第三部 スペシャルライブ

アーティストのステージ/子供達の合唱等

サブ会場 10:30~17:00

視聴覚室会場 パブリックビューイング 記念式典第一部~第三部を中継
北海道の未来トーク

各分野の第一人者が北海道の未来を展望す

るトークを展開 (多様な文化創造等 5 つ)

北海道若者映像コンテスト決勝戦

10 代 20 代の最終候補者による映像作品のプレゼン (私が思
う北海道)

野外会場 ステージイベント/グルメフェア/映像ミニシアター/
パートナー等ブース出展

パネル展示 北海道の歴史、北海道遺産の紹介など

(4) 北海道 150 年ウィーク 2018 年 7 月 14 日 (土) ~8 月 26 日 (日)

(各種記念イベント等を様々なテーマで集中的に実施する期間)

オープニング: 記念ポスト設置・記念切手発行「札幌」、オープニングス

テ

ージ

道民の日・共生社会: 北海道みんなの日 7/17、国際先住民族の日 8/9

「全道」

ミュージカル「松浦武四郎ーカイ・大地との約束ー」札幌公演
食：北海道の「食」の魅力再発見フェア「札幌」
アート：道民芸術祭「全道」、スウェーデン芸術祭 in 小樽「道央」
北海道文学：松浦武四郎 の現代語訳書籍の出前授業「道東」
音楽：ミュージックキャラバンプロジェクト「全道」
イランカラプテ音楽祭 in 南ふらの7/28「道北」
北海道の歴史・文化、自然：150年記念フォーラム「札幌」
プロジェクションマッピング「KAMORI
Wonder Lights 大地」 「道北」
スポーツのチカラ：天塩川カヌーツーリング「道北」
環北海道 2400 ライド「全道」
北海道命名の地 イカダ下り・スポーツフェステバ

ル

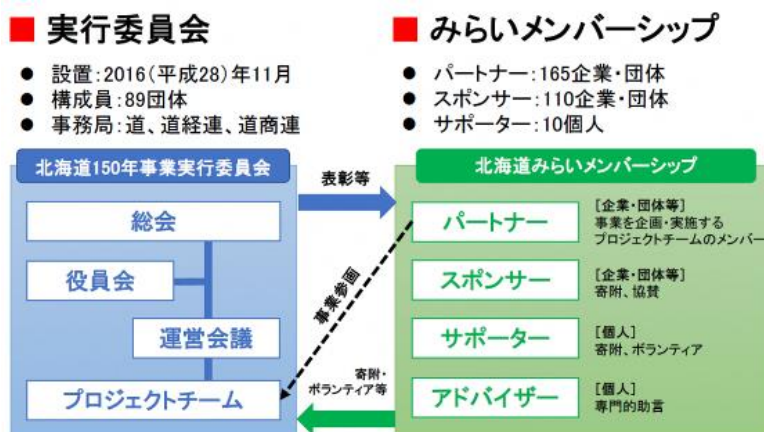
「道北」

科学みらい：子ども未来・夢キャンパス「全道」
積雪寒冷地対応技術の歴史”博物館”「札幌」
ACU まなびシェア 北海道 150年キッズワークショップ
8/5「札幌」
世界へ☆北海道：道民倍増計画「全道」、
北海道 150年モニターツアー「道央他」
北海道 150年の夏：道新・UHB 花火大会、勝毎花火大会 8/13「道東」
エンディング：北海道マラソン 8/26 「札幌」

(5) その他の事業

子ども未来・夢キャンパス/北海道姉妹友好提携地域ラウンドテーブル
北海道サイエンスフェスティバル/ 子どもたちの交流事業/北海道 150年音楽祭

(6) 事業 協力体制



業参画・

(7) パートナー

■ 募集期間(終了)

2017(平成29)年1月16日～12月22日

■ 企業・団体数 165社

■ 募集内容

- 「北海道150年事業基本方針」を踏まえて、実行委員会事業(記念式典、北海道150年ウィーク) 関連企画・PR等を実施
- 人件費を含む事業費が 100万円以上となる事業を企画・実施
※スポンサーとしての寄附額も上記金額に参入可能
- プロジェクトチームを主体的に運営し、プロジェクトリーダーは、運営会議に参画



(8) パートナー事業

企業・団体名	時期	プロジェクトの概要
リコージャパン(株)北海道支社	H30.8	記念式典での遠隔コミュニケーション支援
(株)北海道クラウン	H29.7～	「北海道ステーションナリー」商品の展開
クリプトンフューチャーメディア(株)	H29.8～	雪ミクによる北海道150年コラボ展開
加森観光(株)	H30.1.19～ H30.2.25	道庁赤れんが庁舎プロジェクションマッピングの実施

企業・団体名	時期	プロジェクトの概要
国分北海道(株)	H29.10～	北海道150年記念シール付き商品、「北海道の蔵元 道産米100%純米酒」の販売
	H29.12.5～	「北海道 造り酒屋の甘酒餅」の販売
井村屋グループ(株) (株)たけしろうカンパニー	H29.11～	十勝日誌の自由訳発行と出前授業
	H30.3～	「北海道命名150年記念 紅白たい焼きアイス」の販売
道南食品(株)	H29.12.12～	「北海道179市町村サイコロキャラメル」の販売



(9) 北海道みらい事業・応援企画

募集期間（3次募集）：2018年1月9日～11月30日

事業数 未来事業：944事業、応援企画：90事業

募集内容：①北海道150年事業基本方針を踏まえて、道民・企業・団体・市町村等が主体となって実施する事業

②みらい事業2018年1月～12月に実施する事業

③自己資金により実施する事業

※応援企画は2017年12月までに実施する事業

※みらい事業は地域づくり総合交付金等による支援あり



(10) PR 事業 (PR ツール等)



(11) カウントダウンイベント

150 日前 (みんわらウィーク) 2017 年 8 月 5 日 (土)

開催場所: サッポロファクトリー アトリウム

開催内容: MC による北海道 150 年事業紹介/PR 動画上映/

北海道 150 年インタビュー/北海道 150 年クイズ/PR ブース設置

100 日前 (サッポロオータムフェスト 2017) 2017 年 9 月 23 日 (土)

開催場所: 大通公園 (サッポロオータムフェスト会場)

開催内容: MC による北海道 150 年事業紹介/北海道 150 年インタビュー/

北海道 150 年クイズ/PR ブース設置/NODD(ノル)ミニライブ

(12) キックオフイベント (69 回さっぽろ雪まつり) 2018 年 2 月 5 日~12 日

開催場所: 大通公園二丁目会場

開催内容: ステージイベント/PR 動画上映/北海道 150 年クイズ/

PR ブース設置/大氷像を活用したパートナー関連企画



キックオフイベント (北海道150年事業PRキャラバン)

実施日	実施場所	PR内容
1月13日(土)	イオン苫小牧店(苫小牧市)	<ul style="list-style-type: none"> ・ステージイベント ・北海道150年クイズ ・PR動画上映 ・PRブース設置(PRグッズ配布) ・HTBマスコットキャラクター「onちゃん」を活用したパートナー関連企画
1月14日(日)	イオン上磯店(北斗市)	
2月17日(土)	イオン帯広店(帯広市)	
2月18日(日)	イオン釧路昭和店(釧路市)	
2月24日(土)	イオン北見店(北見市)	
2月25日(日)	イオン旭川西店(旭川市)	



(13) 春・夏プロモーション

実施日	実施場所	イベント名
5月 6日(日)	松前藩戸切地陣屋跡(北斗市)	第22回北斗陣屋桜まつり
5月19日(土) ~20日(日)	大通会場7丁目(札幌市 大通公園)	第60回さっぽろライラックまつり
5月27日(日)	芝ざくら滝上公園(滝上町)	芝ざくらまつり
6月 9日(土) ~10日(日)	大通会場7丁目(札幌市 大通公園)	第27回YOSAKOIソーラン祭り
6月17日(日)	八千代公共育成牧場(帯広市)	第38回八千代牧場まつり
6月30日(土) ~7月1日(日)	旭川平和通買物公園(旭川市)	買物公園まつり
7月22日(日)	阿寒行政センター駐車場ほか(釧路市)	阿寒ふるさとまつり
7月27日(金) ~28日(土)	いわみざわ公園(岩見沢市)	STVどさんこみらいフェス



北海道151年目に向けて

■子どもたちの心に残る事業を

- ・ 子ども未来・夢キャンパス
全道各地の大学、短大、高専で子ども向けのイベント
- ・ ほっかいどうサイエンス・フェスティバル(8/6~7)
- ・ 子どもたちの交流事業

<交流地域> 三重県(松阪市)、佐賀県(佐賀市)

<概要>

- ・ ワークショップ(7/15)
- ・ 三重、佐賀との交流(現地訪問交流・見学)
- 〔 三重県:7/29~31
佐賀県:8/6~8/8 〕
- ・ 報告会(9/16)





武四郎に学ぶ共生の精神

（「財界さつぽろ」平成30年 知事新春インタビュー 抜粋）

「北海道」と名付けた松浦武四郎さんは、アイヌの方々への敬愛の気持ちを忘れませんでした。その思いを引き継いで、互いを認め合う共生の社会を目指すことを基本理念に掲げています。

（中略）

共生というのはアイヌの方々だけではないと思っております。150年事業では、様々な人たちとの共生を視野に入れていきたいと思っています。

（中略）

民族的な共生はもちろんですが、障がいを持っている、持っていないに関わらず、みんなが共生することが大切です。また、最近言われているLGBTの方々なども同様です。こうしたユニバーサルな発想で、150年という節目の事業をしっかりと盛り上げて行く。そして次の50年につなげていきたいと考えています。

4. 所 感

北海道命名 150 年と大きな節目の中で、大イベントの 150 年事業を全道が一丸となって成功させる事に尽力されていることが伝わってきた。150 年の歴史のなかで北海道の名付け親である松浦武四郎がアイヌの方々への、敬愛の気持ちを忘れなかったように、その思いを引き継いで先人へ感謝し、北海道 151 年目の新たな一步を同時にスタートさせている。先人から受け継いだ財産を次の世代につなぐ、北海道の魅力を世界に発信していく為にチャンスを最大限に引き出している様だ。

約 3 年間に渡る事業となるが事業参画実行委員会 89 団体、協力パートナー165 企業、

団体・スポンサー110 企業、団体に上る。大手企業の協力を得てプロジェクトチームを作っているが、企業の強い協力、そして行政、また道民の強い思い、パワーを感じる。

パートナー事業として、三重県津市の井村屋グループも参画しているが松阪市もイベントを含め様々な事業の展開には、広い視野で見えていくべきと実感した。

北海道みらい事業として高校生が北海道の将来を提案する、また高校生パテシエレストラン等、しっかり未来を見据えての事業も行い、横の連携もさることながら、しっかりと縦の連携にも隙がない。

知事の新春インタビューで「武四郎に学ぶ共生の精神で様々な人たちとの共生を視野にいれ、次の 50 年につなげる。」と発言されている。私たちは松浦武四郎と同郷であり

ながら北海道の方々の熱い思いに追い付いていないように思える。また、松阪市のどれだけの方が松浦武四郎について知識があるだろうか、少しそんな思いが頭をよぎる。

北海道庁に訪問し、150年事業を勉強させていただき、ひとつの事業を成功させる為に

どれだけの個人、企業、団体、行政の連携が重要か、またどれだけの準備が必要か、様々

な観点から大変勉強になり、今後の活動に活かしていきたいと思う。

II. 北海道小樽市

1.小樽市の概要（平成 30 年 6 月末現在）

(1) 人 口 男性 52,931 人 女性 64,510 人 合計 117,441 人

(2) 世帯数 64,123

(3) 面 積 243.83km²

(4) 概要

北海道西海岸のほぼ中央、後志地方の東側に位置し、札幌市など 4 市町村に接している。

東西約 36 キロメートル、南北約 20 キロメートルで、市街地の一方が日本海に面し、他の三方を山々に囲まれた坂の多いまちである。

海岸線は約 69 キロメートルで、その中央には天然の良港である小樽港があり、西側の勇壮な海岸は「ニセコ積丹小樽海岸国定公園」に指定されている。

北海道にあって寒暖の差は大きくないが、年間降雪量が 6 m を超える豪雪地帯である。

2.対応者

小樽市議会事務局 事務局長 中田 克浩

小樽市議会事務局 調査係 河崎 仁美

小樽市建設部 空き家対策担当主幹 山岸 博史



小樽市役所にて研修

3.視察項目 小樽市空き家等対策計画について

(1) 計画策定の背景

平成25年の住宅・土地統計調査によると、全国の総住宅数は6,063万戸、その内、空き家数は820万戸で、空き家率（総住宅数に占める割合）は、13.5%となり、5年前の調査に比べ0.4%上昇し、過去最高となりました。今後も、人口減少や高齢化・核家族化の進行などに伴い、空き家は増加していくことが見込まれている。

そのような中、国においては、平成26年11月に「空き家等対策の推進に関する特別措置法」を交付、平成27年5月に全面施行し、市町村が空き家等への対策に取り組む法的根拠を整備した。この措置法では、市町村の責務として、空き家等対策計画の作成及びこれに基づく空家等に関する対策の実施を適切に講ずるよう努めることが明記された。

小樽市における平成25年の住宅・土地統計調査の空家率は、17.2%で全国平均を大きく上回っており、空き家等に関する総合的な対策は喫緊の問題となっている。

(2) 小樽市の現状と特性

人口と世帯数の推移は、大正9年の第1回国勢調査から毎回、増加していたが、昭和35年の198,551人をピークに減少に転じ、平成27年には、121,924人と昭和35年比で約40%、76,587人の減少となった。

また世帯数は、平成12年の61,471世帯をピークに減少し、平成27年には、55,466世帯となった。

(3) 小樽市の特性

小樽市は、北海道西海岸の中央、後志地方の東側に位置し、大都市札幌市など4市町村と隣接し、海岸線69kmを有し東西に細長く、背後の山々が海にせり出し、平地は少ない地形となっている。

気候は海洋性気候のため冬季の気温は北海道の内陸部に比べて高く、寒暖の差は大きくないが、降雪量は比較的多い地域となっている。

明治期になり、北海道開拓の玄関口として港を中心に急速な発展が始まり、多くの石造倉庫や銀行、問屋などが建築され、現在の街並みの原形が形成された。昭和40年代の運河論争を契機に、小樽運河をはじめとする明治期から昭和初期にかけてつくられた建物や倉庫、街並みの保存についての市民の意識が高まり、行政においては、北海道で初めての景観条例を制定し、歴史的建造物の保全・活用や新旧調和の取れた街並みの形成に努めている。

市内の中部地区や高島地区などでは、古くから自然発生的に街なみが形成されてきたことや、地形的に山坂が多いことから、傾斜地が多く敷地や道路が狭い状況にある。

このため、市道等に面していない土地や旗竿地などに建てられた家屋、石垣により造成された土地に建つ家屋が多く現存し、地区によっては、老朽建築物が多く点在している状況が見られる。

また、宅地造成された住宅地は、東南部地区に多いものの、ほぼ市内全域にあり、古い町並みと比較的新しい住宅地が地域に混在している状況になっている。

(4) 策定の目的

法施行後の平成27年6月に空家等に関するワンストップ相談窓口として建設部内に「空き家対策担当部署」を設置し、空き家等対策への取組み強化を進めているところだが、今後の小樽市における空き家等対策の基本的な指針を明確に示し、総合的かつ計画的な空き家等対策を推進していくとともに、市民に空き家等対策に関する理解を深めていただくことを目的として、小樽市空き家等対策計画を策定した。

(5) 小樽市空き家等対策計画の位置付け

本計画は、法第6条第1項に規定する「空き家等対策計画」で、国の基本指針に即して策定するものである。

また、「第6次小樽市総合計画」や「小樽市総合戦略」、「小樽市住宅マスタープラン」などとの整合・連携を図りながら進める計画である。

(6) 空き家等の事態

小樽市の空き家等の状況を把握し、今後の空き家等対策に関する基礎資料の整備を目的として、平成27年度、市内全域を対象に外観目視による空き家実態調査を実施した。

調査の結果、市内の空き家等の総数は2,423件、管理状態別では、建物の管理状態が良い「良好」が985件で全体の41%、建物の管理状態が悪い「不
全」が386件で16%、そのまま放置すると不全となる「準不全」が1,052で43%となった。

空き家率（空き家等数/建物総数）は市内全域で5.1%、地区別では、傾斜のきつい土地に古くに建てられた家屋が多い手宮地区が9.4%と北西部地区で高くなっている。また、市内では、比較的新しく宅地造成された土地のある朝里地区が2.9%、銭函地区が3.3%と札幌市に近い東南地区で低くなっている。

(7) 空き家所有者等の意向

空き家所有者等の意向などを把握するため、空き家アンケート調査を実施した。「空き家アンケート調査」空き家実態調査において空き家等と判定した2,423件の中から無作為に450件を抽出し、その所有者等にアンケート調査票を郵送により配布・回収した。(回収結果：194、通回収率43.1%)

(8) 今後の課題

①所有者等の意識啓発

所有者等のほか、広く市民へ空家等に関する問題を啓発する。

②相談窓口情報の提供

市民に分かりやすく、相談しやすい体制づくりをする。

③管理不全な空き家等の解消

空き家等の適正な管理手法の周知・啓発、除却・解体を促進する対策をする。

(9) 今後の取り組み

①空き家等の発生予防対策について

- a) 市民意識の醸成と啓発
- b) 住宅ストックの良質化と長寿命化

②空き家等の実態把握、調査について

③空き家等の適正管理対策について

- a) 所有者等の管理意識向上
- b) 適正管理に向けた情報提供

④空き家等の利活用対策について

- a) 空き家・空き地バンク制度の充実
- b) 流通による活用の促進
- c) 公営住宅としての活用
- d) 地域による活用の促進

⑤管理不全な空き家等への対応について

- a) 所有者等への注意喚起
- b) 特定空家等認定基準の策定
- c) 特定空家等への措置
- d) 除去・解体の促進

⑥相談・実施体制の整備について

- a) 相談窓口の周知と関係部署との連携
- b) 地域や関係団体等との連携

(10) 質疑応答

①空き家の実態を把握した後の各案件の状態分類方法はどのようなものですか。

小樽市平成27年の空き家実態調査では、4つの状態に分類している。

良好：建物の破損等が見られず保全状態がよく、現状のまま利用可能なもの
不良A：現状のまま利用可能であるが、降雪期において落雪のおそれがあり、
近隣へ影響を及ぼすもの

不良B：良好や不良A、危険に該当しないもの

危険：倒壊したものや倒壊のおそれのあるもの又は老朽化などによる建物の破
損状況が著しいもの

②特定空き家等認定基準の詳細とその運用手順はどのように策定されていますか。

「小樽市特定空き家等認定基準」は国のガイドラインと北海道の「市町村による特定空き家の判断の手引き」や道内他都市の基準を参考に素案を作成、また、空き家等対策会議に専門部会を設け、検討を行い、最終的に空き家会議からの答申を受け、市で最終決定をした。

運用手順については「特定空き家等の措置に関する要領」を策定し、要領に基づき運用をする。

③管理不全な空き家等を除去・解体するための方策は如何に策定すべきでしょうか。

所有者が判明している場合は、空き家に関する除去・解体有無の確認、除去費助成制度の活用を促す、特定空き家等に認定、措置により除去を促す、最終的には「行政代執行」になる。

所有者が不明または不存在の場合は、相続財産管理人選任の申立てにより売却可能かを検討する。特定空き家等に認定し、最終的には略式代執行する。

4. 所感

小樽市では、年間806万人の観光客がある反面、年間約2000人の人口減少、高齢化率39.3%で空き家率も17.2%と全国の13.5%を上回り交通機関で30分圏内にある札幌市に人口が集中していること、また高齢化若者離れが深刻な問題となっている。

このような問題解決を抱えて「空き家特措法」を元に事業を一元化し担当課を設置、空き家実態調査を実施し計画や基準を策定、特定空き家を認定し除去費用助成制度も創設、空き家対策が始動し出したばかりであるが、空き家の所有者の管理意識の欠如や多数の相続人、経済的な理由等で措置が行えないなど法的根拠や費用回収等が出来ない問題が新たに発生している。

空き家・空き地バンク制度も21年度から創設しているが、平成21年～平成29年間度までの8年間で登録成約数ともに14件、29年度から対策担当に移管、市広報誌への周知も行った結果、相談件数は例年の10件程度から22件と増加したが登録は未だ1件である。

問題は、仲介の不動産業者が手を挙げない物件が多いということである。相談件数の多数は、敷地に車が入れない等、不便な場所であったり、老朽化等により不動産価値の低い建物、業者の仲介手数料が低額であるという現状がある。

小樽市の空き家対策内容は、他の市においても殆ど変わりがないと思われるが、固定資産税の納税通知書に空き家対策啓発文書を封入したり、公益社団法人シルバー人材センターに委託する空き家見回りサービスといったものが目についた。

松阪市は、ようやく各自治会にお願いしていた空き家の現状をまとめている段階に入り、他の市に遅れを取っている現状は否めないが、先例としてこういった問題を抽出し、松阪市に合う独自の空き家対策を適切に講じ知恵を出し合い課題を解決していかなければならないと思う。

Ⅲ. 北海道函館市

1. 函館市の概要（平成 30 年 6 月末日現在）

(1) 人口 男性 118,397 人 女性 141,718 人 合計 260,115 人
世帯数 142,966 世帯

(2) 面積 677.86K m²（平成 29 年 10 月 1 日現在）

(3) 概要

函館市は、渡島半島の南東部に位置し、東・南・北の三方を太平洋・津軽海峡にまれ、西は北斗市・七飯町・鹿部町と接している。

室町時代の享徳 3 年(1454 年)、津軽の豪族 河野政通が宇須岸(ウスケシ：アイヌ語で湾の端の意)と呼ばれていた漁村に館を築き、この館が箱に似ているところから「箱館」と呼ばれることとなった。

この館跡は今の基坂を登ったところにある。

明治 2 年(1869 年)、蝦夷が北海道となり、箱館も函館と改められた。

2. 対応者

函館市議会事務局 次長 瀬戸 義夫

函館市議会事務局 主事 佐々木 巧

函館市教育委員会 生涯学習部振興課 主査 倉橋 基幸



函館市役所にて研修

3. 視察項目 函館マラソンについて

第3回を迎える函館マラソンの現況と、25年に及ぶハーフマラソンからフルマラソン開催に至る経過、本市におけるフルマラソン化へ向けた課題抽出の為の研修を行った。

(1) ●「2018 函館マラソン」の概要

フル・ハーフ同時開催、全都道府県からのランナーが初夏の函館を駆け抜ける！

- 初夏に開催される道南最大規模の長距離ロードレース。
日本陸上競技連盟公認コース・国際陸上競技連盟（IAAF）公認コース。
- 函館空港付近～漁火通り～ともえ大橋&ベイエリア…と函館にしかない、異国情緒あふれるコース
途切れない沿道のがんばれ！の声援、メロンや羊羹など充実のフードエイドもランナーの力に。
- 制限時間はフル5時間20分、ハーフ3時間。
- RUN as ONE - Tokyo Marathon（準エリート）提携大会。
- MCC（マラソンチャレンジカップ/（一財）アールビーズスポーツ財団主催）参加大会。
- NIKKEIプラス1「初心者も楽しめる市民マラソン10選」第8位。
- 「平成29年全国商工会議所きらり観光輝き大賞」において【観光立“地域”特別賞】受賞。
- 2017函館マラソンの地域に与える経済波及効果は「5.6億円」と試算（協力：函館大学）

種目	エントリー数	出走数	完走数	完走率	TOPタイム	優勝者
ハーフ男子	3,262	2,707	2,676	98.85%	1:02:40	ポール・タイラ（コニカミノルタ）
ハーフ女子	1,515	1,285	1,267	98.60%	1:13:37	谷本 親月（天海堂）
フル男子	3,048	2,634	2,376	90.21%	2:22:37	山下 侑哉（サンベルクス）
フル女子	565	499	434	86.97%	2:46:37	森川 千明（東京陸協）
ベースランナー	8	8	8	100.00%		
最終制限ランナー	4	4	4	100.00%		
フルゲストランナー	2	2	2	100.00%		
合計	8,404	7,139	6,767	94.79%		



参加ランナーの40%が北海道外の方であり、温泉地等もあり宿泊施設が多いことから、泊り客＝観光客となり経済波及効果が高いという特徴がある。
又、北海道自体が広大であり、道内の方も観光客となりうる。

(2) ●「2018 函館マラソン」のコース

- 日本陸上競技連盟公認コース・国際陸上競技連盟（IAAF）公認コース。
- 千代台陸上競技場スタート&ゴール
- 函館空港付近～漁火通り～ともえ大橋&ベイエリア…と、函館縦断の異国情緒あふれるコース



2018函館マラソンコース図



フルマラソンの高低差がきつく、制限時間も5時間20分と短い、高低差があることにより見晴らしが良い。

折り返し地点が多くなるのは、市街地をコース選定したことによるものであり、観光名所としての特徴を生かすことが目的である。

第1回大会の時間は5時間10分であったが、10分間の延長をしている、もっと時間を延ばしたいところだが、交通規制の関係で長時間の設定が難しい。

RUN as ONE - Tokyo Marathon (準エリート) 提携大会として50位までの選手は優先的に東京マラソンへの出場権がある。

ハーフマラソンについては高低差があまりなく、記録が狙える高速コースとして競技志向の方々にはハーフマラソンをお勧めし、ファンランの方々にはフルマラソンをお勧めしている。

(3) 函館マラソンの特徴

●美しい街の眺めがいいコース

フルマラソンは「日本一過酷なファンラン」、ハーフマラソンは「記録が狙える高速コース」。函館山山頂からの有名な「くびれた」市街地を駆け抜け

るこのコースは、海、山、繁華街や観光名所も含むバラエティに富んだ景色が自慢。



●充実のフード

各エイドには、夕張メロン、海鮮丼、冷やし塩ラーメン、ホワイトチョコレート、羊かんなど…北海道らしい美味しいフードでエネルギーチャージ！として様々な特産品を用意。さらにゴール後にも、疲れを癒す「おもてなし」を用意している。

エイドにおける飲食物はすぐに食べられて、すぐにエネルギーに変換できるものが多く選ばれる傾向があり、生ものはNGとして提供しないことが多いが、スポンサー等の協力によりラーメン・海鮮などが出されている。



●市民のあたたかな応援&ボランティア

市街地がコースになっているため、毎年、多くの市民が沿道応援に駆け付けます。さらに「オフィシャル応援団」が太鼓や吹奏楽、YOSAKOIなどのパフォーマンスでエールを送っている。また、3500人以上の大会ボランティアスタッフも、エイドステーションの運営をはじめ、様々な場面でランナーの皆様をサポートしている。



(4) 函館マラソンの歴史

- 1980年（昭和55年）：第1回函館市民健康マラソン開催
- 1988年（昭和63年）：ハーフマラソンの開催を企図
- 1991年（平成3年）：第1回函館ハーフマラソン大会開催（参加者567人）
- 1996年（平成8年）：第6回大会（参加者1255人）招待選手にエリック・ワイナイナ、宗猛、谷川真理など有名選手が参加
- 2006年（平成18年）：選手の死亡事故が発生以降の大会では救護体制を大幅に強化し、AEDバイク隊の創設や救護スタッフ、メディカルランナーを増員
- 2010年（平成22年）：定員を2000人に拡大
- 2011年（平成23年）：函館商工会議所青年部内にフルマラソン検討委員会が設置され、以降、経済界および陸上競技協会ならびに市教委の三者で協議が重ねられる
- 2012年（平成24年）：定員を4000人に拡大
- 2014年（平成26年）：フルマラソン開催を決定
- 2016年（平成28年）：北海道新幹線開業を記念したフルマラソンを実施（参加者7935人）
- フルマラソン開催を機に「函館マラソン」へリニューアル
- 2018年（平成30年）：3回目となる函館マラソン開催（参加者8404人）
- 27年に及ぶ、歴史ある大会。フル・ハーフ同時開催となり、3回目。

(5) 日本一の「函館マラソン」めざしての課題

●市内交通への影響

市内の交通が麻痺し、市民生活に重大な影響を及ぼすような事態には至らずに、安全な大会が運営できるか。

→フル化3年目となり、徐々に浸透。苦情・問い合わせ件数は年々、減少してきている。

次の段階として、交通規制時間の延長を伴うが、制限時間の延長を目指す。

●参加者の評価

大会に対する満足度と次大会への参加希望状況はどうなっているか。

→2016大会は暴風雨のために満足な運営ができずに、散々な評価。

反省を活かして不具合を改善した結果、2017大会は高評価。

再び雨となった2018大会は、若干、評価を落とすも、まずまずの評価を得る。

●運営経費の確保

継続的な大会開催に向け運営経費の確保（参加料、協賛金、補助金）の見通しはどうなっているか。

→北海道新幹線開業を機にフルマラソン実施ということで北海道の補助金を得ているが、開業から年数が経過しており、今後の見通しは不透明。

また地元有力企業がスポンサーからの撤退を表明しており、新たな協賛企業を探して行くことが必要。

今後は定員増を目指したいが、制限時間の拡大など、市民生活への影響が課題。

4. 所感

函館マラソンにおいての特徴はコンセプトが明確であり、参加ランナーに走ってみたいと思わせる工夫が随所にあるといえる。

日本一過酷なファンランとはいえ制限時間 5 時間 20 分はハードな設定といえよう。本来ファンランというからには、制限時間は 6 時間以上若しくは大げさに言えば 10 時間あっても良いと思われるが、観光名所を走っていただきたいという主催者の思いを実現することにより交通規制にかかる時間の制約があるのは事実である。

それでも、参加したいと思わせる戦略が垣間見える。

その一つが RUN as ONE - Tokyo Marathon (準エリート) 提携大会であるということ。東京マラソンは参加希望者が多く、エントリーすること自体が難しいプラチナ大会であり、函館マラソンに 50 位以内に入賞すれば東京マラソンへの出場権を得られるというのは非常に魅力的である。

そして各エイドや完走後のおもてなし広場におけるフード類の充実したラインナップである。

夕張メロンや海鮮丼をはじめとする北海道らしいフードは、参加者にとっては好評だったのではないかと推察される。

それらを実現させるため運営サイド努力は並大抵のものではなかったのではないか。その原動力のひとつが商工会の青年部の協力体制である。

フード提供に関してはスタッフ丸ごとボランティアとして参加いただいている企業もあり、交通規制に関する広報も、規制により影響を及ぼすであろう市民への全軒配布への協力等などが挙げられる。

ここで取り上げたいのが、やはり函館でマラソンを行うことによる経済効果の高さがあるといえる。

観光名所があり、温泉地もあり、当然宿泊施設も充実している、このことにより前述のように 5 億 6 千万もの経済波及効果がある。

事務局サイドの健康増進としての考えと、経済関係者ここでは商工会青年部の経済効果への恩恵というふたつの思惑が両輪となり、うまく機能したように見受けられる。

本市においては課題である、泊まっていただく為の施設が少ないこと、前泊もしくは終了後に観光をしていただくなどによる経済波及効果は少ないと思われる。

参加者が愛知県又は大阪近辺であれば、日帰りに参加できてしまうことも要因に挙げられる。

運営費用についてはフルマラソン開催するのに、ハーフマラソンの約3倍の費用が掛かるといわれる。

一般的に参加費：補助金：協賛金＝1：1：1と言われており、第一回函館マラソンでは1億7千万円の決算となっている。

ハーフマラソンが5千万円であったとのことでまさに3倍超の運営費となった。

現在の松阪シティマラソンの郊外コースから市街地コースへの変更となると、様々な点で違いが大きすぎるように感じる。

運営費用や交通規制、各エイドステーション、ボランティア募集など、単純に3倍の容量を計算してできるのか。

松阪市において現在フルマラソンの実行委員会が立ち上がったところだが、今のシティマラソンを郊外型のコースから市街地を走るコース選定にして、せめて2回以上の開催をしてはどうか。

市街地コースでノウハウを蓄積してから開催検討をすることを提案したい。

以上